

慶應義塾大学、凸版印刷株式会社、福生市教育委員会の協働による学力向上策研究

1 研究の目的

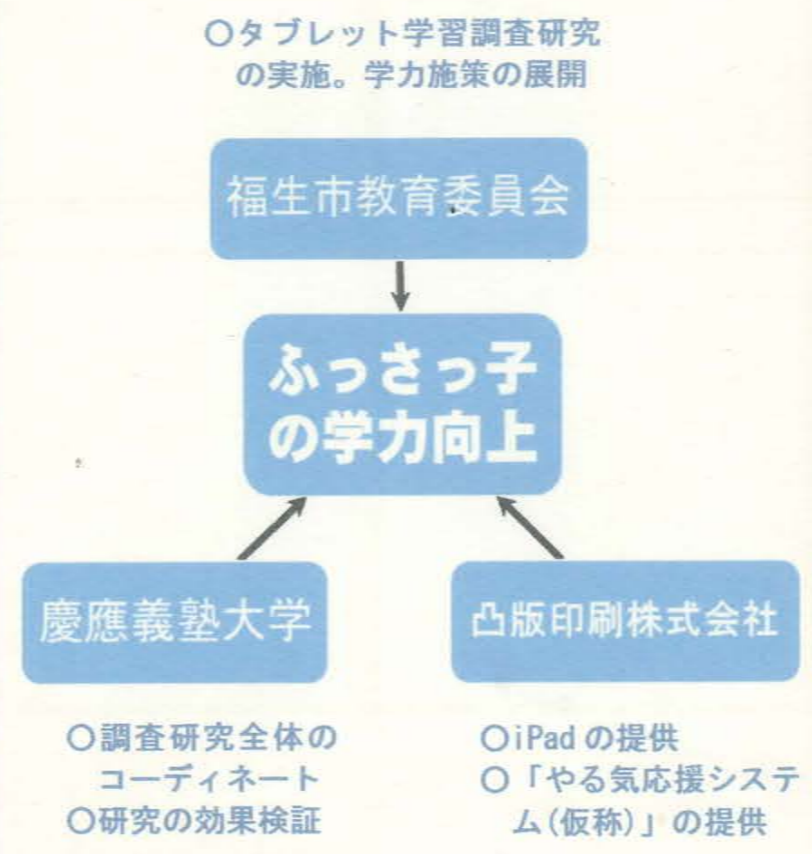
学力向上を目標に、**慶應義塾大学、凸版印刷株式会社、福生市教育委員会**の3者が産官学のチームを組み、**教育経済学の視点に基づく施策展開の有効性について、特に家庭学習におけるタブレットを用いた学習が学力に与える影響の効果検証**を行う。

2 研究の概要

教育経済学を専門とする慶應義塾大学総合政策学部 中室牧子准教授、タブレット端末を活用した「やる気応援システム（仮称）」を開発中の凸版印刷株式会社、学力向上に取り組む福生市教育委員会の3者協働により、**タブレットを用いた算数「わり算」「小数」に関する家庭学習（個人学習）**を、福生市の小学校5校の児童を対象に実施する。
実施前後の学力調査で効果検証を行う。

※「やる気応援システム（仮称）」とは児童のセルフコントロール力の向上をサポートし、これからの日本を支える人材の育成に貢献することを目指す、教科書準拠の学習コンテンツで、凸版印刷株式会社が開発中

※本市教育委員会では、すでに慶應義塾大学、FLENS株式会社との産官学が連携したタブレット学習に関する調査研究を、平成26年10月から平成27年9月まで、市内小学校2校、中学校3校で実施している。



【モデル校】
 第1期：福生第二小学校、福生第四小学校
 福生第五小学校、福生第七小学校
 第2期：福生第三小学校

【対象学年】 第3学年 全児童 約380名

【実施時期】 第1期 平成27年6月頃
 第2期 平成27年10月頃

【使用タブレット】
 iPad セルラーモデル（通信付き）
 ※実施クラス児童分＋担任教員分
 ※学校及び持ち帰りによる自宅利用
 ※「閲覧可能なサイト」を設定して児童が自宅で任意に閲覧可能

3 期待される研究の成果

児童は iPad による家庭学習を行う。（授業中に使用する場合もある）

- (1) 回答の正誤情報は集約され、誤答を分析し、つまづきを解消する教材を提供する「**レコメンド機能**」
- (2) 児童自身が学習目標を設定し、取り組むことが出来る「**目標管理機能**」
- (3) 担任教師が、児童の家庭学習状況を確認し、翌日コーチングの声かけに活用出来る「**学習履歴管理機能**」

児童に学ぶ喜びとできる自信を育み、「やる気」が育つ

タブレット学習の調査研究成果を踏まえ、「福生市立学校の学力向上策」「福生市学校 ICT 推進計画」を策定

【問い合わせ】 福生市教育委員会事務局
 参事兼指導室長事務取扱 石田 周
 学務・指導係長 矢ヶ崎 冬木
 TEL 042-551-1948
 k-sanji@city.fussa.tokyo.jp